

今、私たちにできること

関川村立関川中学校 3年 山本 智夏

揺れる蛍光灯。あちこちから聞こえる悲鳴。あの瞬間は今でも忘れられません。

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分東北地方で大規模な地震が起きました。津波の被害が大きく、大勢の方々が亡くなってしまった歴史に残る大地震でした。

その日私たちは、二年生で最も大きな行事、修学旅行の最終日を迎えていました。旅行先は、東京。もうまもなく新潟行きの新幹線で帰ろうという時でした。友達の一人が、かすかな揺れに気づき、その後徐々に揺れが激しくなりました。東北地方大震災です。揺れがおさまり、駅のホームでは電車や新幹線の一時運休の放送が鳴り響き、ホーム内の人々はあわただしく動いていきます。先生の指示で私たちは駅のホームでしばらく新幹線が動くのを待つことになりました。しかし、一時間二時間と過ぎていく一方で、新幹線が動くことはありませんでした。みんな修学旅行にくわえて地震もあり、かなり疲れきっていました。

しばらくして、添乗員の方から指示がありました。「今日は帰れません。今日泊まれる所まで歩きます。」私たちは驚きました。そして正直嫌でした。しかし、歩き始めると、電車がいないために駅で一夜を明かす人や黙って歩く人に、たくさん会いました。その光景を見たとき、泊まれる宿があることに感謝しました。それからみんな、必死で長い道のりを歩きました。そんな時、みんなの口から出てくるのは「がんばろう。」「あともうちょっとだよ。」などのはげましの言葉ばかりでした。自分も疲れきっているにもかかわらず、荷物をもってくれる男子の姿もありました。まさに「助け合いの心……。」お互いがお互いのことを心配し合い、助け合える。みんなの心が一つになった瞬間でした。その助け合いのおかげで私たちは無事、宿に到着することができました。宿では、いきなりの大勢の予約にもかかわらず、精一杯のおもてなしをしてくださいま

した。泊まれるところがある、食べるものがある、ふとんがある、水がある、そして大事な人たちがみんな生きている、いつもはあたり前でなにも感じなかったことが、なにもかもに感謝できる一日でした。

その夜、テレビをつけ、初めて地震の状況を知ることができました。家も畑も人もみんな流されていて、ところどころで火事が起きていて、ひさんな光景が目にとびこんできました。地震警報が部屋中に鳴り響いて、余震もたびたび起こりました。とても怖くて、眠れませんでした。なんとか一夜を明かしました。この経験から私は、緊急時に助け合うことの大切さと命があることのありがたさをしみじみと感じ取ることができました。

この地震で、一瞬にして多くの命が奪われ、まだ生きていたかった人も大勢亡くなりました。突然、家族や親しい友人を失った人はどんなにつらかったでしょうか。世の中には、自殺などで自分から命を落としてしまう人も大勢います。自分から命を落としてしまうことは、理由はどうであれ、絶対やってはいけないことだと思います。許されないことだと思います。命がある限り、みんな精一杯生きていくべきだと思います。今回の地震を通して、命があることのありがたさにあらためて気づかされました。

新潟も中越沖地震など、たびたび大きな地震の被害にあいました。そのたびに、日本中の人から、世界中の人から、支えてもらい、声援をもらいました。その日本を支えてくれた国の中には、経済的な困難や紛争などで、自分たちも苦しいという国もいくつかあります。それでも、助け合っていこうという思いで、精一杯の援助をしてくれています。その気持ちに感謝し、日本は、努力していかなければならないのではないのでしょうか。

今、私たちにできることは、節電、募金、などいろいろな方法がありますが、一番大切なことは、「みんなでみんなを応援すること」だと思います。

「がんばれ。」ではなく「がんばろう。」一日でも早く日本がもとどおりになることを願って、みんなで心をつないでがんばりましょう。

がんばろう、日本！！